

第16歌 テレマコス、乞食（オデュッセウス）の正体を知る

[テレマコス](#)は[エウマイオス](#)を訪ねると、帰国を[ペネロペ](#)に知らせるため豚飼を町へ遣わした。[アテナ](#)は乞食姿の[オデュッセウス](#)を元の姿に戻し、テレマコスと父子の再会をさせた。二人は求婚者殺害の策略を練った。求婚者はさらにテレマコス殺害を企てるが、ペネロペは彼らの非道を責めた。

内容

テレマコス豚飼を訪ねる [オデュッセウス](#)と[エウマイオス](#)が小屋で朝食を済ませたところに、[テレマコス](#)がやってきて戸口に立った。エウマイオスは感動して泣きながらテレマコスの手や頭に接吻して出迎え、小屋の中へ招き入れた。テレマコスは乞食姿のオデュッセウスと顔を合わせた。ただの客人だと思った。三人は食事をした。テレマコスが豚飼に客人の素性を訊ねると、豚飼は「この人は[クレタ](#)出身で、各地を放浪したそうですが、身柄を若様に預けたい」と言った。テレマコスは求婚者がいる屋敷でこの客人を迎えることは出来ないと断り、「望めばどこへでも送るし、良かったらこの農場に留めて世話をすれば良い」と言った。

豚飼を町につかわす [オデュッセウス](#)は[テレマコス](#)に屋敷で求婚者たちが無法にふるまっている事情を尋ねた。テレマコスは「父オデュッセウスは屋敷で私を生むと、戦争に行ってしまう戻らなかった。だから近隣の島々から無数の敵が集まってきて、私の母に求婚し、われらの財産を蕩尽しているのだ」と答え、[エウマイオス](#)に「爺よ、町へ行って母[ペネロペ](#)に私が戻っていることを知らせてきてくれ」と頼んだ。豚飼が承知して出て行くと、[アテナ](#)がオデュッセウスだけに姿を現して小屋に入ってきて、彼を外へ連れ出した。今はもう全てを息子に話し、求婚者を倒す謀りごとをめぐらすべきである、とアテナは言って、杖でオデュッセウスの体に触れ、衣服を清潔にして姿を若くしてやった。



([画像/オデュッセウスとテレマコスの再会](#))

父子の再会 [テレマコス](#)はすっかり変わった姿で入ってきた[オデュッセウス](#)に驚き、神ではないかと畏れた。オデュッセウスは「わしは神などではなく、そなたの父である」と息子に接吻したが、テレマコスはなおも信じようとせず、「先ほどまでは乞食のような姿であったのに、今は神にも見紛う姿、人間にこのようなことが出来るはずがありません」と言った。オデュッセウスは「度を越して怪しむのは良くないぞ。これはアテナがなされたことで、私は間違いなくそなたの

父だ」と言うと、二人は抱き合って泣いた。

求婚者を殺す策略を練る [オデュッセウス](#)は「今わしがここへ来たのは二人で求婚者どもを討ち果たす計略を練るためだ。さあ、求婚者の人数を挙げてくれ」と言った。[テレマコス](#)は「[ドゥリキオン](#)から52、[サメ](#)から24、[ザキュントス](#)から20、[イタカ](#)から12が来ています」と答えた。オデュッセウスは言った。「夜があげたら、そなたは屋敷へ戻り、求婚者どもと一緒になれ。わしは後から乞食に身をやつして豚飼に連れて行ってもらう。わしが求婚者に恥辱を加えられても、そなたはじっと堪えて忍ぶのだぞ。それから、わしがそなたに頼いてみせたら、そなたは広間にある武器をわれら二人の分を残して、全て倉庫にしまうのだ。もう一つ、オデュッセウスが帰国したことを誰にも知らせてはならぬ。豚飼にも[ラエルテス](#)老にも、[ペネロペ](#)にすらな」

求婚者たちの話し合い 一方豚飼は屋敷に着いて、[ペネロペ](#)に[テレマコス](#)が帰還したことを伝えた。求婚者たちは暗殺が上手くいかなかったことに気落ちした。彼らは集会場で話し合ったが、[アンティノオス](#)は「我らは待伏せに失敗し、[テレマコス](#)を帰国させてしまった。領民たちは今はもう我らに好意を寄せておらぬ。町外れの農場か、道で彼を殺してしまおう」と一同に提案した。そのなかで[アンピノモス](#)は「[テレマコス](#)を殺すのは賛成できない。まず神々の意志を訊ねるべきだ」と言うと、一同はそれに同意し屋敷へ戻った。

ペネロペ求婚者を責める [ペネロペ](#)は求婚者の前に姿を現した。[アンティノオス](#)に向かって「そなたは腹黒い人じゃ。なぜに[テレマコス](#)に対して殺害を企んだりするのか。そなたの父が[テスプロトイ](#)人に害を加えて、この国の領民に殺されそうになった時、民を止めたのが[オデュッセウス](#)であったのですよ」と言うと、[エウリュマコス](#)は「安心なさるがよい。[テレマコス](#)を手にかけてよとする者など決しておりません」と答えたが、その当人が[テレマコス](#)の暗殺の首謀者だった。

豚飼が町から帰ってくる 豚飼は小屋に帰ってきたが、[アテナ](#)は再び杖で[オデュッセウス](#)に触れ、乞食姿に変えた。[テレマコス](#)が豚飼に町の様子を訊ねると、豚飼いは「帰り道で、多数の武装した人間が乗った船が一艘入江に入っていくのを見ましたが、あれが例の待伏せの連中だろうと思いました」と答えた。三人は楽しく食事をして、眠りについた。

関連

人名

(作成中)

地名

(作成中)

[前へ](#) ... [オデュッセイア](#) ... [次へ](#)